



世界一を探そう!

地図帳で世界をもっと知ろう 2

奈良教育大学教授 岩本 廣美

子どもは一般に好奇心が旺盛です。何かを探することは子どもにとってわくわくする活動です。探して発見することは喜びや達成感につながり、知的好奇心がいっそう刺激されて、学習意欲につながっていきます。地図は、漫然と眺めるだけでは雑多な情報の寄せ集めに過ぎませんが、子どもが1枚の地図から何かを探し、発見するという目的をもつことによって、地図学習は活性化され、楽しい活動になっていきます。

こうした観点から、ここでは、「大きい国探し」、「世界一探し」の活動を例に、現行の『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』（以下、地図帳）を活用して、「世界をもっと知る」ことに迫る方途を示したいと思います。

● 大きい国探し ●

地図帳に掲載されている世界に関する基本図を使って、「このページから面積のもっとも大きい国を探してみよう」という課題を出してみましょう。子どもたちは、ただちに、そのページで「大きい国探し」を始めます。地図帳p.47～48「ユーラシア東部・オセアニア」^(注)を活用する場合は、子どもたちは、ロシア連邦、中華人民共和国（＝中国）、オーストラリア、といった国々に目を向けることになりそうです。

新しい学習指導要領・社会5学年には「主な国の名称と位置」という内容が盛り込まれましたが、こうした課題を提示することによって、子どもたちは、楽しみながら知らず知らずのうちに「主な国」に目を向けることになるのです。

「大きい国探し」の活動を通して、子ども

たちは、基本図「ユーラシア東部・オセアニア」の中でロシア連邦がもっとも大きいだろうとの推測をすることはできますが、今ひとつ確証をもつには至りません。そこで、統計資料を活用させ「裏付け」ととらせたいものです。地図帳p.65「世界の国別統計」で、ロシア連邦、中国、オーストラリアのそれぞれの面積を調べさせてみましょう。その結果、ロシア連邦＝1,710、中国＝960、オーストラリア＝774（単位は万km²）であることがわかり、「大きい国探し」に決着をつけることができます。

地図帳のp.51「ヨーロッパ州・アフリカ州」、p.53「北アメリカ州」、p.54「南アメリカ州」を活用して、同様の学習を進めれば、「世界の主な大陸」ごとに「主な国」に子どもたちの目を向けさせることができ、学習に広がりや深まりをもたせることができ、新しい学習指導要領の求める内容に無理なく迫ることができるのです。

● 世界一探し ●

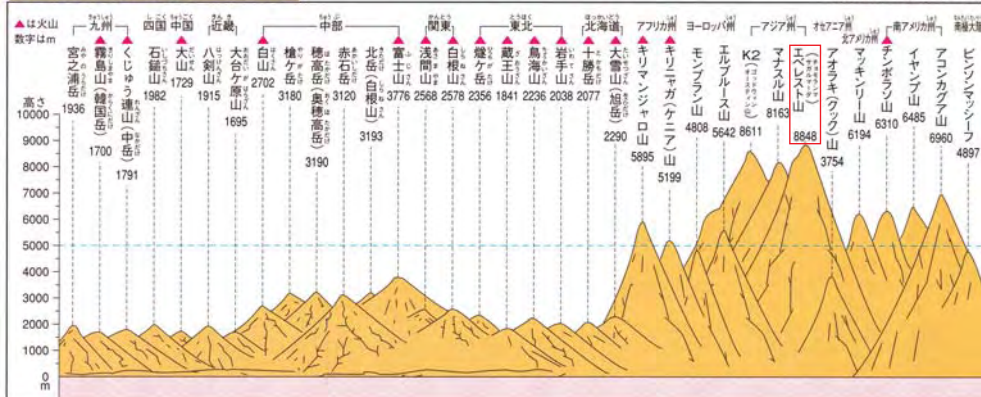
子どもは、オリンピックの影響もあって「世界一」への関心をおおいにもっています。地図帳で「世界一探し」をすることによって、世界への関心をいっそう高めることができます。この場合には是非とも活用したいのが地図帳p.62「自然の統計」です。このページを用いれば、子どもは、世界の主な山、川、湖に関して世界一を簡単に探すことができます。エベレスト山、ナイル川、カスピ海を見つけることができるだけでなく、山、川、湖それぞれ日本一のものとも比較ができ、日本を相対的にみる視点をもつこともできます。

(注) 世界に関する基本図は面積を正しく表す図法で描かれているので、面積比較は妥当な活動になります。地図帳p.74～76「世界の国々と国旗」のように面積を正しく表していない図法もあるので、注意しましょう。

おもしろ統計資料 自然の統計

① 日本と世界のおもな山の高さ

(理科年表 平成18年, ほか)



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 (初訂版)』上p.62、下p.47

地図帳p.47～54の世界に関するページでは「なんでも世界一」という表示で多様な「世界一」を提示していますので、これらの活用も図りたいものです。地図帳p.62でエベレスト山はアジア州にあることがわかりますので、p.47～48の基本図「ユーラシア東部・オセアニア」で、エベレスト山がどこにあるかを子どもたちに探させてみましょう。エベレスト山を発見すれば、中国とネパールの国境にあることもわかります。同じように、ナイル川をp.51「ヨーロッパ州・アフリカ州」で発見すれば、ナイル川が赤道付近から地中海までアフリカ大陸を南北に流れていることに気づき、下流部付近でピラミッドとスフィンクスを発見することにもなります。

これらのほかにも、たとえば、p.49～50の拡大図「日本の近隣諸国とアジア」では、年間降水量の世界最多を記録した地点（チェラ

ブンジ）、反対に年間降水量の世界最少を記録した地点（アスワン）など、さまざまな「世界一」が見つかりますので、子どもたちに探させてみましょう。これらの数字を、p.62に掲載されている「日本各地の気温と降水量」の中の数字と比較できれば、世界一の意味を具体的に理解することにもなります。

このように、地図帳では「世界一探し」が多面的にできるようなしかが用意されていますので、子どもが世界に目を向ける契機に活用を図ってみたいものです。

地図帳から何かを探す活動の例として「大きい国探し」、「世界一探し」の2つの例を示しましたが、探す活動のテーマはほかにもあるはずです。このテーマ自体を子どもとともに考えると地図学習はいつそう深化していくといえましょう。